

おぐまひと美

小 熊

後援会ニュース

《No.2》 2022.9.1発行
発行者 おぐまひと美後援会
Mail: ogumahitomikouenkai@gmail.com
☎017-742-6728
〒030-0966
青森市花園1-7-14



繰り返すまい戦争への道

——77年目の夏を迎えて

おぐまひと美

私の義母は、昨年92歳で亡くなりました。終戦前後は青森高女に通っていて、空襲のあった1945年の7月は、徴用されて大湊の海軍工廠で女子挺身隊として働いていました。青森空襲の夜は、陸奥湾をはさんで、青森市が空襲で焼けているのを見たそうです。

その妹は、焼夷弾が降り注ぐ青森市内を、弟の手を引いて逃げまどいました。逃げている途中、泣く赤ちゃんを背にうつぶせに倒れている母親など、亡くなっている人をたくさん見たそうですが、感覚が麻痺していたのか、何の感情もわかなかったということです。

77年前の惨禍を経て、私たちはこの悲惨な戦争を二度と繰り返さないと平和憲法で誓いました。

戦後生まれの私自身はさいわい戦争を経験しないで今日まできましたが、ここに来て集団的自衛権とか、敵基地攻撃能力とか、核共有とか、果ては核武装まで、勇ましい言説で戦争に向かおうという勢力が頭をもたげてきています。

そして私たちは戦争ばかりでなく、核のゴミなどでも子や孫の世代に負の遺産を押し付けようとしています。これは私たちの世代できっぱりと払拭していかなければならないと思います。

77年目の夏、私は平和憲法を守り、二度と戦争をしないという決意を新たにしました。

青森市に新しい風を吹かせてください

大竹 進

(大竹整形外科 院長)

北海道出身の私が浪岡で医療を担当して36年になります。津軽弁は話すのは苦手ですが「風の人」から「土の人」になったかなと思っています。

風の人も土の人も夏祭りはもちろん、水害などの災害では協力します。政治的な主張が違っている市議会議員も、市民の健康や福祉については市民と一緒に力を合わせる必要があります。

青森市の医療や介護は瀕死の状態です。浪岡では5月に「介護無理心中」の報道もありました。コロナ第7波で医療機関はひっ迫し、電話が通じない

入院できない状況も発生しました。心と体の健康は何よりも大切です。

おぐまひと美さんは、体と心の痛みがよくわかる人です。社民党市民相談室長として、市民の皆さんの心と体の痛み、お金で困っていることの相談に乗っています。

息苦しい、出口が見えない中で、新しい風が必要です。市民の皆様の方で青森市にも「おぐまひと美」という新しい風を吹かせて下さい。

ホームページ

<https://ogumahitomi.net>



ツイッター

<https://twitter.com/ogumakouenkai>



市民相談室を開設しました みなさんの声をお聞かせください



社民党青森県連合
市民生活相談室長
おぐまひと美

《市民生活相談室》
青森市青柳1丁目3-14
社会文化センター1F
☎017-775-7242

コロナ禍が続く中、実質賃金が下がっているのに物価は大幅上昇。年金は減っているのに、保険料はアップ。特に最近の大幅な物価上昇は、年金生活の高齢者、非正規雇用の女性や若者、子育て中の家庭など、すべての人の生活を直撃し、暮らしが破壊され、大勢の方が苦しんでいます。

そして非正規雇用は4割を超える勢いです。今回アップが決まった最低賃金ですが、全国平均961円に対して青森県は全国最低部類の853円です。これを全国一律で時給1500円まで引き上げ、同時に中小企業に対しての十分な支援の実現を目指します。

今、コロナ禍の中で13万人もの人が解雇や雇い止めにあっています。まさきに首を切られるのは、非正規雇用の女性です。なんでこんなに非正規雇用がふえてしまったのでしょうか。本来なら、正規雇用で雇うべき仕事を非正規に置き換えて、できるだけ安く使う、簡単に首を切れる、雇用に対する責任を持たなくてすむ、そんな働き方を許し、働く者をとことん買い叩いてきたというのが今の実態ではないでしょうか。皆さんはどうお感じになりますか？

おぐまひと美 プロフィール



- 長野県に生まれ、高校生まで善光寺のお膝元で育つ。
- 上京してシングルマザーとして二人の子育てを育てながら懸命に働く。その間にうつも経験。回復後は非正規で働き続ける。
- 常に困っている人、マイノリティ、少数派と共にありたいというのが生きる上での信条。
- 3.11の福島原発事故以降、原発を止める活動を続けてきた。活動の中で青森の男性と知り合い再婚、青森市に移住。趣味は庭いじり、読書、映画、手芸、数独。
- 空の広さとおいしい食べ物に感動。自然とともに生きる青森の暮らしに幸せを感じる毎日。
- 社民党青森県連合・市民生活相談室長。1955年生まれ。青森市花園在住。



おぐまひと美 活動日誌

7/14 青函連絡船戦災者追悼・平和の祈念の集いにて。司会を担当



ロシアのウクライナ侵攻を受けて、もっと軍備の増強をという声も上がる中、改めて戦災で亡くなった方を思い、不戦を誓った77年目の夏でした

7/28 青森空襲・戦災犠牲者追悼・平和祈念の集いにて。青森空襲を記録する会の今村修さんと



3年ぶりのねぶた祭りに孫と参加

